

国際化に向けた 信州まつもと空港の今後の取り組みについて



長野県議会議員 自由民主党県議団 団長

本郷 一彦

国際化取組みのきっかけ

信州まつもと空港の国際化は、ジェット化開港以来、多くの皆さんが、心の中でずっと思ってきたことでもあります。しかしながら、具現化するためには公式アプローチが必要であり、その最初のスタートが阿部知事2期目の最初の議会となった、平成26年9月定例会本会議での質問で、私が「ジェット化開港20周年を迎えた空港は次のステージを目指す時期だ」と国際化の必要性を知事に申し上げました。

この私の質問に、知事は「国内の国際空港、東アジアまでを視野に就航路線の拡充を考えねばならない」と応じ、それがきっかけとなり、県庁内で国際化の検討が開始され、昨年の6月に「信州まつもと空港の発展・国際化に向けた取組方針」が策定されるまでに至った所でありま

国際観光戦略的要素について

昨年3月に国が策定した「明日の日本を支える観光ビジョン」では、訪日外国人旅行者数について、平成32年(2020年)には4000万人、平成42年(2030年)には6000万人を目標として掲げており、これを受けて長野県でも「信州創生戦略」のなかで、平成31年の外国人延宿泊者数を200万人とする目標を掲げました。

松本空港は、外国人も多く訪れる国内有数の観光地へのアクセスに優れた、地理的に高いポテンシャルを有した空港であります。この空港の活用を進めることは本県を訪れる外国人観光客のさらなる増加につながると思われま

訪日誘客支援空港について

先ごろ、信州まつもと空港は、国の「訪日誘客支援空港」に認定され、この認定に当たって、井上会頭さんには、国の選定委員に対するヒアリングに太田副知事とともにご出席いただきなど、ご尽力をいただき感謝申し上げます。

松本空港は、これまでの国際線の実績は乏しいものの、周辺に豊かな自然環境を有するなど空港の持つポテンシャルの高さに、国も訪日誘客の進展を期待していることと表れと、大変うれしく思っているところでありま

国際化に向けては、国際線ターミナル建設やエプロン(駐機場)の拡

張、また、駐車場の増設といった重要かつ早急に取り組むべき課題があります。

そのほか、CIQ(関税・出入国管理・検疫)への対応、GPSを利用した着陸進入システムである「RN P-AR」方式の導入などの課題が山積しております。

これらの多くは、国土交通省から支援または認可をいただく必要があり、また今回の認定は、国は伴走支援を行うとのこと、これらの課題についても、大きな進展が望める

空港の国際化の効果

県が策定した国際化への取組方針の最終目標は、東アジアの都市間を結ぶ国際定期便を2路線週4便と国際チャーター便の年100便の運航としております。平成27年度に県が実施した松本空港の需要予測調査では、中国、台湾、韓国からのインバウンド利用として、年間約10万人の潜在需要があり、アウトバウンド利用として、年間約3万人の潜在需要があります。

インバウンド効果

将来「中国・上海」と「台湾・台北」へ週2便の定期便が就航した場合、1便当りおおよそ100人の乗客が搭乗すると、このうちインバウンド客は約70人を占めると考えられ、この場合の年間のインバウンド客数は、15120人となりま

の外国人観光客の一人当たりの消費額を引用して算出すると、インバウンド客の長野県内における旅行支出額の総額は、単純計算で、8億3000万円と推計できます。

また、延宿泊者数は、45360人(7560人×3泊×2(中国・台湾))となります。国が調査した平成28年の本県の中国と台湾からの外国人延宿泊数は約42万人(従業員数10人以上の施設)であり、この約1割に相当します。これはわずか2便が就航した場合の試算結果であり、便数が増えれば、さらに外国人数やその消費額は増えていくと期待されます。

アウトバウンド効果

上海や台北から定期便が就航したとき、日本人の利用者は全体の約3割と見込まれ、1便あたり30人程度であります。国の調査等において、長野県から海外へ渡航した者の渡航理由別の人数という調査はないが、観光かビジネスがほとんどを占めるのは明らかであります。

信州まつもと空港は、離着陸できる機種が限定される上、搭乗制限等を行う必要があることから、いわゆるLCCのビジネススタイルは受入できない空港であります。このため、料金的な比較では、成田や羽田、中部といった大空港を利用する場合と比較したときに、国内の交通費を含めても、なお割高な料金となる可能性があります。

単純に空港までの時間、空港における手続きの時間を考えると、松本空港の優位性は高いものがあるといえます。松本周辺はもちろんのこと、長野県内全域、さらには山梨県なども、松本空港の利用の優位性が高いと考えられ、旅行日数が短い旅行者や、特に忙しいビジネスユーザーにとって、移動時間の短縮は大きなアドバンテージとなると思われます。

国際化への課題

先ほども申し上げたが、国際化に向けては、国際線ターミナル建設やエプロン(駐機場)の拡張、また、駐車場の増設といった重要かつ早急に取り組むべき課題があります。そのほか、CIQ(関税・出入国管理・検疫)への対応、GPSを利用した着陸進入システムである「RN P-AR」方式の導入などの課題が山積しております。

長野県における唯一の「空の玄関口」である信州まつもと空港の国際化は、松本市のみならず長野県全域の発展に欠かせないものであることは衆目の一致しているところであり、現在は、課題の解決の途中ではあるが、これから県を中心に地域が一体となってスピード感を持って確実に実施していかなければなりません。

そのためには、県や松本市などの行政だけでは対応に限度があります。商工会議所との協働が欠かせないことは言うまでもないことであり、今後ともしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。